

一般社団法人 社会福祉経営全国会議

コロナ・実態・事例ニュース



2021年8月30日発行 (No.1) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902

電話 06-6772-1360 Fax06-6772-1376 Eメール/jimukyoku1@f-zenkoku.net

コロナによる現場の実態・事例を緊急募集！

コロナの感染拡大が猛威を振るっています。医療崩壊といわれていますが、保育をはじめとした福祉現場の崩壊が起きているともいわれています。

デルタ株による第5波では、子どもへの感染の広がり、多くの保育園での休園、陽性者が出てても疫学調査や濃厚接触者の特定もされない、自治体の対応がバラバラなど、これまでにない事態に現場や管理者は混乱し疲弊しています。

刻々と変わる情勢と現場の混乱が緊急事態であることから、今現場で何が起きているのか、何が問題なのか、その実態をつかみニュース等で発信し、共有していきたいと思えます。

事務局へ直接メールで送っていただいても結構です。また、フォームに書き込んでいただいても結構です。法人や施設、お名前が特定できない形でニュース等に掲載させていただきます。字数は自由です。ご協力をお願いします。

第5波での保育所の状況

保育園にウイルスを持ち込ませないために、出勤基準を厳しくしながら休業補償もしてきた。

陽性者がでて臨時閉所も経験し、そうした場合の対応もマニュアル化して備えてきた。

毎日、感染者数が最多更新する中で、職員の子どもの預け先が臨時閉所して、職員が出勤できない状況になっている。

正規保育士のうち、すでに産休・育休者もあり、さらに3人の保育士が子どもの預け先が臨時閉所して出勤できず、正規保育士の半数で現場を回している。

休暇の返上、給食献立の見直し、クラスを合同にする、などで対処している。

園長は朝出勤して、中抜けして、延長保育に入っている。中抜けといっても、事務業務をしている。

保護者への利用自粛も要請し、協力を得ている。

ウイルスを持ち込ませないための休業規定も見直している。

職員も管理者も疲弊している。

第5波の収束の見通しが立たない、こんな状況がいつまで続くのか。

9月1日には小学校の2学期が始まり、子どもの感染がさらに広がるだろう。

とにかく人手が足りない。人がいない。求人しても派遣会社にもいない。

保育園がホットスポットになっているような状況で、働きに来る人がいるだろうか。

本当に困っている。(愛知・保育園)

●「コロナ感染爆発！今、福祉の現場で何が起きているのか！事例募集中！」書き込みフォーム

<https://forms.gle/M44xvT4iMxVHujzDA>



全国会議では、ワクチンを含むコロナ関連の要望書を政府に提出し、9月10日に要求・要望の事前学習会、9月22日に政府交渉を行います。今回の実態・事例もふまえて取り組んでいきます。

参加確認フォーム

<https://forms.gle/4UqwSCLFndeE5VY97>



さっそくお寄せいただいた声をご紹介します！

赤枠：総合的な意見、情報

黄枠：現場で起きている問題

緑枠：職員や利用者等に与えている影響等

青枠：国や自治体への要望

低年齢児への感染、家庭内感染が広がっているのに、保育所はまだまだ検査キットの配布などがなく、感染予防は園と職員の自己責任に任されている。感染者、濃厚接触者が出てても要員の代替えがなく、保護者の協力で休んでもらうしかないが、自治体としての要請がなされない。また、感染後の後遺症もひどく、3月に感染した30代職員の例では、5月末から心神耗弱が始まり、突然倒れるので救急車で運び、後遺症専門病院を紹介されてやっと診断がついた。現在休職中。5月に感染した50代パートは、発熱と倦怠感が2か月以上続き、後遺症専門病院の助言でワクチン接種すると症状は軽減した。しかし夜の発熱は収まっていない。園児感染は兄弟2名。保護者感染は法人全体で通算5例。(大阪・保育園)